
中央大学大学院

文学研究科 博士前期課程

出題意図・解答又は解答例

2026 年度入試

一般入試

外国人留学生入試

社会人特別入試

行動する知性。



文学研究科 博士前期課程

「問題」の目次において○印のある科目について掲載しています。

研究科	専攻	課程	科目名	入試方式	ページ
文学	各専攻共通	博士前期	英語	一般入学試験（秋季）	1
文学	各専攻共通	博士前期	英語	一般入学試験（春季）	2
文学	各専攻共通	博士前期	ドイツ語	一般入学試験（春季）	3
文学	各専攻共通	博士前期	フランス語	一般入学試験（秋季）	4
文学	各専攻共通	博士前期	フランス語	一般入学試験（春季）	5
文学	各専攻共通	博士前期	中国語	一般入学試験（春季）	6
文学	国文学	博士前期	国語学・国文学	一般入学試験（秋季）	7
文学	国文学	博士前期	国語学・国文学	社会人特別入学試験	
文学	国文学	博士前期	国語学・国文学	外国人留学生入学試験（秋季）	
文学	国文学	博士前期	国語学・国文学	一般入学試験（春季）	8
文学	国文学	博士前期	国語学・国文学	外国人留学生入学試験（春季）	
文学	英文学	博士前期	英語学・英米文学	一般入学試験（秋季）	9
文学	英文学	博士前期	英語学・英米文学	社会人特別入学試験	
文学	英文学	博士前期	英語学・英米文学	外国人留学生入学試験（秋季）	
文学	英文学	博士前期	英語学・英米文学	一般入学試験（春季）	10
文学	英文学	博士前期	英語学・英米文学	外国人留学生入学試験（春季）	
文学	独文学	博士前期	ドイツ語学・ドイツ文学・ドイツ文化学	一般入学試験（春季）	11
文学	独文学	博士前期	ドイツ語学・ドイツ文学・ドイツ文化学	外国人留学生入学試験（春季）	
文学	仏文学	博士前期	フランス文学・フランス美術史	一般入学試験（秋季）	12
文学	仏文学	博士前期	フランス文学・フランス美術史	社会人特別入学試験	
文学	仏文学	博士前期	フランス文学・フランス美術史	外国人留学生入学試験（秋季）	
文学	仏文学	博士前期	フランス文学・フランス美術史	一般入学試験（春季）	13
文学	仏文学	博士前期	フランス文学・フランス美術史	外国人留学生入学試験（春季）	
文学	中国言語文化	博士前期	中国語学・中国文学・中国文化学	一般入学試験（秋季）	14
文学	中国言語文化	博士前期	中国語学・中国文学・中国文化学	社会人特別入学試験	
文学	中国言語文化	博士前期	中国語学・中国文学・中国文化学	外国人留学生入学試験（秋季）	
文学	中国言語文化	博士前期	中国語学・中国文学・中国文化学	一般入学試験（春季）	15
文学	中国言語文化	博士前期	中国語学・中国文学・中国文化学	外国人留学生入学試験（春季）	
文学	日本史学	博士前期	日本史	一般入学試験（秋季）	16
文学	日本史学	博士前期	日本史	社会人特別入学試験	
文学	日本史学	博士前期	日本史	外国人留学生入学試験（秋季）	
文学	日本史学	博士前期	日本史	一般入学試験（春季）	17
文学	日本史学	博士前期	日本史	外国人留学生入学試験（春季）	
文学	東洋史学	博士前期	東洋史	一般入学試験（秋季）	18
文学	東洋史学	博士前期	東洋史	社会人特別入学試験	
文学	東洋史学	博士前期	東洋史	外国人留学生入学試験（秋季）	
文学	東洋史学	博士前期	東洋史	一般入学試験（春季）	19
文学	東洋史学	博士前期	東洋史	外国人留学生入学試験（春季）	
文学	西洋史学	博士前期	西洋史	一般入学試験（秋季）	20
文学	西洋史学	博士前期	西洋史	社会人特別入学試験	
文学	西洋史学	博士前期	西洋史	外国人留学生入学試験（秋季）	
文学	西洋史学	博士前期	西洋史	一般入学試験（春季）	21
文学	西洋史学	博士前期	西洋史	外国人留学生入学試験（春季）	
文学	哲学	博士前期	哲学史	一般入学試験（秋季）	22
文学	哲学	博士前期	哲学史	外国人留学生入学試験（秋季）	
文学	社会学	博士前期	社会学	一般入学試験（秋季）	23
文学	社会学	博士前期	社会学	社会人特別入学試験	
文学	社会学	博士前期	社会学	外国人留学生入学試験（秋季）	
文学	社会学	博士前期	社会学	一般入学試験（春季）	24
文学	社会学	博士前期	社会学	外国人留学生入学試験（春季）	
文学	社会情報学	博士前期	社会情報学	一般入学試験（秋季）	25
文学	社会情報学	博士前期	社会情報学	社会人特別入学試験	
文学	社会情報学	博士前期	社会情報学	外国人留学生入学試験（秋季）	
文学	社会情報学	博士前期	社会情報学	一般入学試験（春季）	27
文学	社会情報学	博士前期	社会情報学	外国人留学生入学試験（春季）	
文学	教育学	博士前期	教育学	一般入学試験（秋季）	29
文学	教育学	博士前期	教育学	社会人特別入学試験	
文学	教育学	博士前期	教育学	外国人留学生入学試験（秋季）	
文学	教育学	博士前期	教育学	一般入学試験（春季）	30
文学	教育学	博士前期	教育学	外国人留学生入学試験（春季）	
文学	心理学（心理学コース）	博士前期	心理学	一般入学試験（秋季）	31
文学	心理学（心理学コース）	博士前期	心理学	外国人留学生入学試験（秋季）	
文学	心理学（心理学コース）	博士前期	心理学	一般入学試験（春季）	36
文学	心理学（心理学コース）	博士前期	心理学	外国人留学生入学試験（春季）	
文学	心理学（臨床心理学コース）	博士前期	臨床心理学	一般入学試験（秋季）	41
文学	心理学（臨床心理学コース）	博士前期	臨床心理学	社会人特別入学試験	
文学	心理学（臨床心理学コース）	博士前期	臨床心理学	外国人留学生入学試験（秋季）	
文学	心理学（臨床心理学コース）	博士前期	臨床心理学	一般入学試験（春季）	46
文学	心理学（臨床心理学コース）	博士前期	臨床心理学	外国人留学生入学試験（春季）	

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	各専攻共通
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☐ 外国人留学生入試
試験科目	英語（各専攻共通）
出題の意図 解答または解答例	本研究科は、選抜にあたって専門分野の文献を正確に読み取り、自らの見解を直截に文章化する言語能力を有していることを評価基準のひとつとしている。各専攻共通外国語（英語）においては、この基準に基づき出題を行なっている。具体的には、辞書を使いこなしつつ文脈に即して語義を正確に理解し、文法に適った和訳を行う能力を測る。 なお解答例については、著作権許諾処理の問題、および解答の誘導の恐れにより公表できない。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	各専攻共通
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☐ 外国人留学生入試
試験科目	英語（各専攻共通）
出題の意図 解答または解答例	本研究科は、選抜にあたって専門分野の文献を正確に読み取り、自らの見解を直截に文章化する言語能力を有していることを評価基準のひとつとしている。各専攻共通外国語（英語）においては、この基準に基づき出題を行なっている。具体的には、辞書を使いこなしつつ文脈に即して語義を正確に理解し、文法に適った和訳を行う能力を測る。 なお解答例については、著作権許諾処理の問題、および解答の誘導の恐れにより公表できない。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季 ） 文学研究科 ☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程 各専攻共通
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☐ 外国人留学生入試
試験科目	ドイツ語（各専攻共通）
出題の意図 解答または解答例	解答・解答例は、著作物の権利処理の問題により公表できない。但し、出題の意図は以下の通りである。 1 問目は、主に文法力（質的語彙力、統語構造を見抜く力、先行詞と代名詞の照応関係などテキストの結束構造・結束性を理解する力）を有しているかという観点から、基礎的なドイツ語力を確認するための問題である。2026年度入試は文学作品からの出題だが、テキスト種類にかかわらずドイツ語の文法に基づいた理解の上に立った訳が求められる。 2 問目・3 問目については、受験生が1 問選択して解答する。専門分野に関わってくるような内容・形式のテキストで、必要に応じて、テキスト外情報（背景知識や基礎的な専門知識）を援用して読む。学術ドイツ語の力を見る問題でもある。

「出題の意図」「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季 ） 文学研究科 ☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程 仏文学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☐ 外国人留学生入試
試験科目	フランス語（各専攻共通）
出題の意図 解答または解答例	学術的文体のフランス語で書かれた文章を読み、指定された箇所を適切な日本語に訳出する問題である。フランス語の基礎的な文法事項を正しく理解しているか、文章全体の論旨を踏まえた上で指定された箇所の意味を正確に理解し日本語に訳せているかを確認することを目的としている。 解答または解答例は、著作物の権利処理の問題により公表できない。ただし、採点時の観点は以下の通りである。 ・ 指定箇所の原文の内容が正しく理解できているか ・ 文章理解において特に問題となる文法事項（時制、法、代名詞など）を正しく理解した上で訳出できているか ・ 文章全体の論旨を踏まえた適切な訳語を選択できているか ・ 日本語として十分に意味の通る訳文になっているか

「出題の意図」「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	仏文学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☐ 外国人留学生入試
試験科目	フランス語（各専攻共通）
出題の意図 解答または解答例	学術的文体のフランス語で書かれた文章を読み、指定された箇所を適切な日本語に訳出する問題である。フランス語の基礎的な文法事項を正しく理解しているか、文章全体の論旨を踏まえた上で指定された箇所の意味を正確に理解し日本語に訳せているかを確認することを目的としている。 解答または解答例は、著作物の権利処理の問題により公表できない。ただし、採点時の観点は以下の通りである。 ・ 指定箇所の原文の内容が正しく理解できているか ・ 文章理解において特に問題となる文法事項（時制、法、代名詞など）を正しく理解した上で訳出できているか ・ 文章全体の論旨を踏まえた適切な訳語を選択できているか ・ 日本語として十分に意味の通る訳文になっているか

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	各専攻共通
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☐ 外国人留学生入試
試験科目	中国語（各専攻共通）
出題の意図 解答または解答例	各専攻共通中国語の試験問題は、入学者選抜にあたって、「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に則り、前期課程の教育研究を行う素養（すなわち「語学力」「論理能力」「計画性」）の中で、特に語学力（専門分野の文献を正確に読み取り、自らの見解を直截に文章化する言語能力）の習熟度を測ることを目的として出題しているが、著作物の著作権許諾処理の問題により解答または解答例を公表することはできない。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	国文学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☒ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	国語学・国文学
出題の意図 解答または解答例	本試験問題は、すべて国文学・国語学の分野についての知識を問うものとなっているが、その出題形式の性質上、解答や解答例を公表することは適切ではないと判断し、代わりに採点時の観点を以下に示す。 設問 A 掲出の古文を語彙、文法を正しく理解した上でわかりやすい現代語に直せているか。 設問 B 古典文学の研究に必要なくずし字を正しく解読できるか。または、近代文学で用いられる用語・概念について正しく理解できているか。 設問 C 近代文学の中から与えられたテーマに合致する作品を選び、論じることができるか。 設問 D 国語学のテクニカルターム、国語学史、日本語の言語学的知識等について正しく理解できているか。 設問 E 国文学史上の作品・人物・流派等について正しい知識を持っているか。 以上

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	国文学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	国語学・国文学
出題の意図 解答または解答例	本試験問題は、すべて国文学・国語学の分野についての知識を問うものとなっているが、その出題形式の性質上、解答や解答例を公表することは適切ではないと判断し、代わりに採点時の観点を以下に示す。 設問 A 掲出の古文を語彙、文法を正しく理解した上でわかりやすい現代語に直せているか。 設問 B 古典文学の研究に必要なくずし字を正しく解読できるか。または、近代文学で用いられる用語・概念について正しく理解できているか。 設問 C 近代文学の中から与えられたテーマに合致する作品を選び、論じることができるか。 設問 D 国語学のテクニカルターム、国語学史、日本語の言語学的知識等について正しく理解できているか。 設問 E 国文学史上の作品・人物・流派等について正しい知識を持っているか。 以上

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	英文学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☒ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	英語学・英米文学
出題の意図 解答または解答例	当該専門分野における主要なテーマについて、そのテーマに関する具体的な課題や論述を題材として、問いを的確に把握するとともに、自身の見解を論述することを求めることで、当該分野に関する基礎知識の有無と課題に対する論理的な検討の可否を測ることを目的としている。 本試験問題は、その出題形式の性質上、解答や解答例を公表することは適切ではないと判断し、代わりに採点時の観点を以下に示す。 設問Ⅰ 英文学・米文学・英語学・英語教育の4分野24問から選択した5つの鍵語や専門用語について、以下の要件を満たした解答となっているか。 ①その学術的な意味内容や文学史的意義などを正しく理解しているか。 ②それが論理的に構成され、明晰に文章化されているか。 ③過不足ない内容で、指定された分量に収まっているか。 設問Ⅱ 英文学・米文学・英語学・英語教育の4分野8問から選択した1つのテーマについて、以下の要件を満たした解答となっているか。 ①その学術的な意味内容や文学史的意義を正しく理解しているか。 ②その研究上の課題が明確に述べられているか。その際、先行研究などへの言及が適切になされているか。 ③それが論理的に構成され、過不足ない内容で、明晰に文章化されているか。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	英文学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	英語学・英米文学
出題の意図 解答または解答例	当該専門分野における主要なテーマについて、そのテーマに関する具体的な課題や論述を題材として、問いを的確に把握するとともに、自身の見解を論述することを求めることで、当該分野に関する基礎知識の有無と課題に対する論理的な検討の可否を測ることを目的としている。 本試験問題は、その出題形式の性質上、解答や解答例を公表することは適切ではないと判断し、代わりに採点時の観点を以下に示す。 設問Ⅰ 英文学・米文学・英語学・英語教育の4分野24問から選択した5つの鍵語や専門用語について、以下の要件を満たした解答となっているか。 ①その学術的な意味内容や文学史的意義などを正しく理解しているか。 ②それが論理的に構成され、明晰に文章化されているか。 ③過不足ない内容で、指定された分量に収まっているか。 設問Ⅱ 英文学・米文学・英語学・英語教育の4分野8問から選択した1つのテーマについて、以下の要件を満たした解答となっているか。 ①その学術的な意味内容や文学史的意義を正しく理解しているか。 ②その研究上の課題が明確に述べられているか。その際、先行研究などへの言及が適切になされているか。 ③それが論理的に構成され、過不足ない内容で、明晰に文章化されているか。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季 ） 文学研究科 ☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程 独文学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	ドイツ語学・ドイツ文学・ドイツ文化学
出題の意図 解答または解答例	I.について 一定の模範解答を示す形式の出題ではない。 問題文の題意を正しく読み取り、自らが持つ知識から適切なものを選び出し、それらを論理的・有機的に結びつけることで、意味の通った明解な解答を限られた時間と分量で作成するという能力を測定する。解答に使用する日本語・ドイツ語とも学術的な運用力が要求される。いずれも入学後の研究に必要となる能力である。内容については、学際的な立場から評価・採点する。 II.について 一定の模範解答を示す形式の出題ではない。 問題文のドイツ語を正しく読み取った上で、求められている情報について、ドイツ語で記述し論拠を述べる力を評価の対象とする。単なる体験談やエッセイのような形式・内容では不十分で、解答を通して学術ドイツ語の習得状況を把握する意図がある。専攻の学びにあたり、必要不可欠な能力である。

「出題の意図」「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（ ■秋季 □春季 ） 文学研究科 ■博士前期課程 □博士後期課程 仏文学専攻
入試方式	■一般入試 ■社会人特別入試 ■外国人留学生入試
試験科目	フランス文学・フランス美術史
出題の意図 解答または解答例	フランス文学史・西洋美術史について、作家・芸術家の名前や作品名をフランス語で記憶し、それらの内容を正確に理解しているか、適切な日本語で説明できるかを確認する記述式問題である。 【フランス文学】 フランス文学史上特に重要な事項、および特に重要な作家に関する知識を問う。 【フランス美術史】 美術史用語、西洋美術史の知識、芸術家に関する知識を問う。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例を公表することはできない。 採点時の観点は以下の通りである。 ・設問の趣旨を的確に把握し、問われたことに過不足なく答えているか。 ・文学史・美術史の流れや各時代の特徴を理解したうえで、事実に基づいた内容になっているか。 ・作家・芸術家の活躍した年代、代表作や作風などについて、具体例や歴史的背景などを解答に盛り込んでいるか。 なお、設問の性質上、唯一の正解が存在するわけではないため、採点にあたっては、内容の正確さのみならず、文章の一貫性や論理性、表現力を含め、総合的に評価する。

「出題の意図」「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（☐ 秋季 ☒ 春季） 文学研究科 ☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程 仏文学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	フランス文学・フランス美術史
出題の意図 解答または解答例	フランス文学史・西洋美術史について、作家・芸術家の名前や作品名をフランス語で記憶し、それらの内容を正確に理解しているか、適切な日本語で説明できるかを確認する記述式問題である。 【フランス文学】 フランス文学史上特に重要な事項、および特に重要な作家に関する知識を問う。 【フランス美術史】 美術史用語、西洋美術史の知識、芸術家に関する知識を問う。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例を公表することはできない。 採点時の観点は以下の通りである。 ・設問の趣旨を的確に把握し、問われたことに過不足なく答えているか。 ・文学史・美術史の流れや各時代の特徴を理解したうえで、事実に基づいた内容になっているか。 ・作家・芸術家の活躍した年代、代表作や作風などについて、具体例や歴史的背景などを解答に盛り込んでいるか。 なお、設問の性質上、唯一の正解が存在するわけではないため、採点にあたっては、内容の正確さのみならず、文章の一貫性や論理性、表現力を含め、総合的に評価する。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	中国言語文化専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☒ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	中国語学・中国文学・中国文化学
出題の意図 解答または解答例	本試験問題は、中国語学・中国文学・中国文化学の分野についての専門知識および日本語による論理的な表現力を問うものである。また、専門分野の中国語資料を正確に読み取り、自分の見解を日本語で文章化する言語能力および論理能力を測ることを目的としている。 出題形式の性質上、解答や解答例を公表することは適切でないと判断し、代わりに採点時の観点を以下に記す。 設問Ⅰ 専門知識を問う問題 中国語学・中国文学・中国文化学の3分野12項目の中から選択した5項目について、以下の要件を満たした解答となっているか。 ①学術的な意味内容を正確に理解しているか。 ②中国語学・中国文学・中国文化学の各分野の視点から、適切な説明を展開できているか。 ③簡潔な日本語で、過不足なく明晰に文章化されているか。 設問Ⅱ 資料読解力を問う問題 中国語学・中国文学・中国文化学の3分野2問の中から選択した中国語の長文ひとつについて、以下の要件を満たした解答となっているか。 ①学術的な中国語の文章の内容を正確に読み取ることができるか。 ②文章の内容に関連させながら自由な発想で思考を深め、専門的な論述に発展できるか。 ③自らの見解を日本語で文章化する論理的思考および論理的表現力を有しているか。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	中国言語文化専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	中国語学・中国文学・中国文化学
出題の意図 解答または解答例	本試験問題は、中国語学・中国文学・中国文化学の分野についての専門知識および日本語による論理的な表現力を問うものである。また、専門分野の中国語資料を正確に読み取り、自分の見解を日本語で文章化する言語能力および論理能力を測ることを目的としている。 出題形式の性質上、解答や解答例を公表することは適切でないと判断し、代わりに採点時の観点を以下に記す。 設問Ⅰ 専門知識を問う問題 中国語学・中国文学・中国文化学の3分野12項目の中から選択した5項目について、以下の要件を満たした解答となっているか。 ①学術的な意味内容を正確に理解しているか。 ②中国語学・中国文学・中国文化学の各分野の視点から、適切な説明を展開できているか。 ③簡潔な日本語で、過不足なく明晰に文章化されているか。 設問Ⅱ 資料読解力を問う問題 中国語学・中国文学・中国文化学の3分野2問の中から選択した中国語の長文ひとつについて、以下の要件を満たした解答となっているか。 ①学術的な中国語の文章の内容を正確に読み取ることができるか。 ②文章の内容に関連させながら自由な発想で思考を深め、専門的な論述に発展できるか。 ③自らの見解を日本語で文章化する論理的思考および論理的表現力を有しているか。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	日本史学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☒ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	日本史
出題の意図 解答または解答例	日本史学の専門分野における、主要な歴史概念や語句の説明と、歴史上重要な出来事や歴史の流れについての論述、および日本史学・考古学に関する史資料の読解を通して、歴史学に関する専門的知識と、論理的な文章を書く力を測ることを意図している。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例を公表することはできない。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	日本史学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	日本史
出題の意図 解答または解答例	日本史学の専門分野における、主要な歴史概念や語句の説明と、歴史上重要な出来事や歴史の流れについての論述、および日本史学・考古学に関する史資料の読解を通して、歴史学に関する専門的知識と、論理的な文章を書く力を測ることを意図している。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例を公表することはできない。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	東洋史学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☒ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	東洋史
出題の意図 解答または解答例	東洋史学に関する知識だけでなく、論理的に物事を説明することができるかを問う。問1は、具体的な事象や概念をとおして、東洋史学に関する幅広い知識を問うものである。いずれも、東洋史学を専攻するものとして、身に着けておかななくてはならない基本的な知識である。問2では、自身が専門とするテーマに関連する研究史を、特定の国や地域に偏ることなく広く把握できているか、またその内容を研究史、あるいは史学史の中に適切に位置づけることができるかを確認する。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例を公表することはできない。 記述解答の文章表現・構成・内容から、以下の2点を、総合的に判断する。 1. 博士前期課程での学修および研究に必要な専門的知識を備えているか。 2. 博士前期課程での学修および研究に必要な日本語力を備えているか。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	東洋史学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	東洋史
出題の意図 解答または解答例	東洋史を研究する上で必要となる専門知識の正確な理解、それらを順序立てて論理的に説明できる能力を測ることを意図している。いずれも、東洋史学を専攻するものとして、身に着けておかななくてはならない基本的な知識である。問1は、具体的な事象や概念をとおして、東洋史学に関する幅広い知識を問うものである。問2は、個別具体的な事象・概念に関する基礎的な知識を問うものである。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例を公表することはできない。 記述解答の文章表現・構成・内容から、以下の2点を、総合的に判断する。 1. 博士前期課程での学修および研究に必要な専門的知識を備えているか。 2. 博士前期課程での学修および研究に必要な日本語力を備えているか。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2 0 2 6 年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季 ） 文学研究科 ☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程 西洋史学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☒ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	西洋史
出題の意図 解答または解答例	本試験問題は、以下の二つの目的を意図して出題している。 第一に、受験生が西洋史（古代オリエント史を含む）の研究における重要テーマについて十分に理解しており、それを適切な日本語で説明できているかどうかを確認することである。 第二に、受験生が上記のテーマを自身の研究分野に即して理解し、それを自身の研究関心や問題意識とつなげられているか、また以上の内容を適切かつ論理的な日本語で表現できているかどうかを確認することである。これは、修士論文を執筆するうえで必要とされる日本語の運用能力を有しているかを測るためでもある。 本試験問題は、その出題形式の性質上、唯一の正解が存在するわけではない。したがって、解答や解答例を公開することは適切ではないと判断し、代わりに採点時の観点を以下に示す。本試験問題は、以下の3点を基準として採点を行った。 ①出題したテーマについて、その意味内容や学術的な意義を正しく理解しているか。 ②上記のテーマを自身の研究分野に即して理解し、さらにそれを自身の研究関心や問題意識へと引き付けつつ、研究上の課題が明確に述べられているか。その際、先行研究などへの言及がなされているか。 ③学術論文を執筆するのにふさわしい日本語運用能力を備えているか。また、論理的に構成された文章になっているか。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季 ） 文学研究科 ☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程 西洋史学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	西洋史
出題の意図 解答または解答例	本試験問題は、以下の二つの目的を意図して出題している。 第一に、受験生が西洋史（古代オリエント史を含む）の研究における重要テーマについて十分に理解しており、それを適切な日本語で説明できているかどうかを確認することである。 第二に、受験生が上記のテーマを自身の研究分野に即して理解し、それを自身の研究関心や問題意識とつなげられているか、また以上の内容を適切かつ論理的な日本語で表現できているかどうかを確認することである。これは、修士論文を執筆するうえで必要とされる日本語の運用能力を有しているかを測るためでもある。 本試験問題は、その出題形式の性質上、唯一の正解が存在するわけではない。したがって、解答や解答例を公開することは適切ではないと判断し、代わりに採点時の観点を以下に示す。本試験問題は、以下の3点を基準として採点を行った。 ①出題したテーマについて、その意味内容や学術的な意義を正しく理解しているか。 ②上記のテーマを自身の研究分野に即して理解し、さらにそれを自身の研究関心や問題意識へと引き付けつつ、研究上の課題が明確に述べられているか。その際、先行研究などへの言及がなされているか。 ③学術論文を執筆するのにふさわしい日本語運用能力を備えているか。また、論理的に構成された文章になっているか。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 5 年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	哲学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☒ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	哲学史
出題の意図 解答または解答例	本問は、哲学史における基本的な語彙・概念および重要な問題について、正確に説明する能力を問う。あわせて、概説や特定の学説を単に暗記するのではなく、それらを踏まえて自らの言葉で批判的に考察し、論点を再構成する能力を有しているかを評価する。 また、記述においては、論証の前提の明確さ、推論の妥当性、論理的導出の適切性といった点を重視する。 外国人留学生については、これらに加えて、日本語を用いて高度に思考を表現する運用能力も重要な評価要素とする。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例を公表することはできない。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（ ■秋季 □春季 ） 文学研究科 ■博士前期課程 □博士後期課程 社会学専攻
入試方式	■一般入試 ■社会人特別入試 ■外国人留学生入試
試験科目	社会学
出題の意図 解答または解答例	問1 社会学の基本的知識を問う問題である。社会学を研究するに当たって必要となる、主要な社会学者の基本的な概念の理解の程度を問うている。各設問において、4類型の名称を正しく答えられているかどうか、その各類型の内容が正確に記述できているかどうか採点基準となる。 （1）マックス・ウェーバーの社会的行為の四類型 「目的合理的行為」「価値合理的行為」「感情的行為」「伝統的行為」 （2）マルクスによる「労働疎外」の4類型「生産物からの疎外」「労働からの疎外」「自己からの疎外」「類的疎外（他者からの疎外）」 （3）デュルケムによる自殺の四類型「自己本位自殺」「利他的自殺」「アノミー的自殺」「宿命的自殺」 （4）パーソンズの四つの機能類型「Adaptation：適応」「Goal Attainment：目標達成」「Integration：統合」「Latency：潜在パターンの維持」 問2 本試験は、文学研究科社会学専攻のアドミッション・ポリシーにもとづき、社会学の専門文献の読解を通じて、限られた時間内に正確に理解する能力、および自らの考えを的確に表現する能力を問うことを狙いとしている。 設問1 専門的な文書の内容理解を問う問題である。1950年代後半から1980年代初頭において社会の重要な変化のもとで社会学においても大きな変容したという主張に対して、具体的事例を紹介しつつ、的確に理解・記述できるかを問うた問題である。 設問2 1950年代後半から1980年代初頭における社会変動とともに社会学が大きく変容したという主張に対して批判的に検討し、自ら独創的な主張を思考・記述することができるかを問うた問題である。 なおいずれの問題に関しても、解答を誘導する恐れがあるため解答または解答例を公表することはできない。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	社会学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	社会学
出題の意図 解答または解答例	問1 本試験の出題の意図は、文学研究科社会学専攻のアドミッション・ポリシーにもとづき、受験生が自らの研究関心と問題意識を踏まえて修士論文を作成していくにあたって、社会学の研究に必要な用語や概念について十分な理解をしており、文章で適切に説明できるかどうかを確認するものである。 採点時の観点は次のようになる。1）社会学の基本的な理論・学説について正確に理解しているか、2）社会学の基本的な用語・概念について正確に理解しているか、3）社会学の専門用語を用いて論理的な説明ができるか、以上の3点である。 問2 本試験は、文学研究科社会学専攻のアドミッション・ポリシーにもとづき、社会学の専門文献の読解を通じて、限られた時間内に正確に理解する能力、および自らの考えを的確に表現する能力を問うことを狙いとしている。 設問1 専門的な文書の内容理解を問う問題である。筆者が「日本社会のしくみ」の成立をいかに論じているかを的確に理解・記述できるかを問うた問題である。 設問2 「戦後日本の社会契約」として「日本社会のしくみ」が歴史的に形成され、今日まで続いているとの主張に対して批判的に検討し、自ら独創的な主張を思考・記述することができるかを問うた問題である。 なおいずれの問題に関しても、解答を誘導する恐れがあるため解答または解答例を公表することはできない。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	社会情報学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☒ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	社会情報学
出題の意図 解答または解答例	< A.基礎理論 > 本問題においては、受験者が社会情報学の基礎的な理論に関する知識を有しているか、また、その知識を今日的な現象に応用し、論理的に思考・記述できる能力を有しているかを確認することを目的としている。 採点時の観点は以下の通りである。 ・設問の趣旨を正確に理解し、論理的に適切に解答をおこなっているか ・社会情報学の基礎的な概念や先行研究を正確に理解し、今日的な現象に適切に応用し、記述しているか ・論理的思考力、および論理構成本力が学術論文執筆に十分であるか < B.メディア・コミュニケーション論 > 本問題においては、受験者がメディア・コミュニケーション論に関わる基本的な理論や概念についての、十分な知識を有しているかどうか、また実社会における諸現象に関する理解と共に、そうした知識を応用して、論理的に、思考・記述できる能力を有しているかどうかを確認することを目的としている。 採点時の観点は以下の通りである。 第一に、設問の趣旨を正確に把握し、論理的に正確な解答を行っているかどうか。 第二に、メディア・コミュニケーション論に関わる基本的な理論や概念についての、十分な知識を有しているかどうか、また実社会における諸現象に関する理解と共に、そうした知識を応用して、論理的に、思考・記述できる能力を有しているかどうか。 第三に、本学大学院に入学後に行う研究や論文の執筆に向けて、十分な論理的思考力や記述力を有しているかどうか。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	社会情報学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☒ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	社会情報学
出題の意図 解答または解答例	< C. 図書館情報学 > 本問題においては、受験者が図書館情報学が扱う領域の基礎的な知識、技術、技能等を十分に有しているか、またそれらを図書館にかかる過去、現在、将来に応用し、論理的に思考、記述できる能力を有しているかを確認することを目的としている。 採点時の観点は以下の通りである。 ・設問の趣旨を正確に理解し、論理的に適切に解答しているか。 ・図書館情報学が扱う領域の基礎的な知識、技術、技能等を正確に理解し、図書館にかかる過去、現在、将来に適切に応用し、記述しているか。 ・本学大学院に入学後の研究活動や論文執筆に際し、十分な論理的思考力や記述力を有しているか。 < D. 情報システム学 > 本問題においては、受験者が情報システム学が扱う領域の基礎的な知識、技術、技能等を十分に有しているか、また、情報システムを取り扱う際にその知識を適切に応用し、論理的に思考、記述できる能力を有しているかを確認することを目的としている。 採点時の観点は以下の通りである。 ・設問の趣旨を正確に理解し、論理的に適切な解答をおこなっているか ・情報システム学の基礎的な概念や先行研究を正確に理解し、問われた内容に対して適切かつわかりやすく説明できているか ・論理的思考力、および論理構成力が学術論文執筆に十分であるか < E. データ解析 > 本設問の出題意図は次の2点である。 ①統計学の基本的な概念・統計量について理解しているか ②その意味と目的について理解しているか 採点基準は以下のとおりである。 ①基本的な統計量の算出方法を誤りなく記述できていること ②記述統計と推測統計の違いを理解して記述できていること なお、いずれの問題に関しても、解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例を公表することはできない。

「出題の意図」 ・ 「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	社会情報学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	社会情報学
出題の意図 解答または解答例	< A.基礎理論 > 本問題においては、受験者が社会情報学の基礎的な理論に関する知識を有しているか、また、その知識を今日的な現象に応用し、論理的に思考・記述できる能力を有しているかを確認することを目的としている。 採点時の観点は以下の通りである。 ・ 設問の趣旨を正確に理解し、論理的に適切に解答をおこなっているか ・ 社会情報学の基礎的な概念や先行研究を正確に理解し、今日的な現象に適切に応用し、記述しているか ・ 論理的思考力、および論理構成本力が学術論文執筆に十分であるか < B.メディア・コミュニケーション論 > 本問題においては、受験者がメディア・コミュニケーション論に関わる基本的な理論や概念についての、十分な知識を有しているかどうか、また実社会における諸現象に関する理解と共に、そうした知識を応用して、論理的に、思考・記述できる能力を有しているかどうかを確認することを目的としている。 採点時の観点は以下の通りである。 第一に、設問の趣旨を正確に把握し、論理的に正確な解答を行っているかどうか。 第二に、メディア・コミュニケーション論に関わる基本的な理論や概念についての、十分な知識を有しているかどうか、また実社会における諸現象に関する理解と共に、そうした知識を応用して、論理的に、思考・記述できる能力を有しているかどうか。 第三に、本学大学院に入学後に行う研究や論文の執筆に向けて、十分な論理的思考力や記述力を有しているかどうか。 < C.図書館情報学 > 本問題においては、受験者が図書館情報学が扱う領域の基礎的な知識、技術、技能等を十分に有しているか、またそれらを図書館にかかる過去、現在、将来に応用し、論理的に思考、記述できる能力を有しているかを確認することを目的としている。 採点時の観点は以下の通りである。 ・ 設問の趣旨を正確に理解し、論理的に適切に解答しているか。 ・ 図書館情報学が扱う領域の基礎的な知識、技術、技能等を正確に理解し、図書館にかかる過去、現在、将来に適切に応用し、記述しているか。 ・ 本学大学院に入学後の研究活動や論文執筆に際し、十分な論理的思考力や記述力を有しているか。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	社会情報学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	社会情報学
出題の意図 解答または解答例	<D.情報システム学> 本問題においては、受験者が情報システム学が扱う領域の基礎的な知識、技術、技能等を十分に有しているか、また、情報システムを取り扱う際にその知識を適切に応用し、論理的に思考、記述できる能力を有しているかを確認することを目的としている。 採点時の観点は以下の通りである。 ・設問の趣旨を正確に理解し、論理的に適切な解答をおこなっているか ・情報システム学の基礎的な概念や先行研究を正確に理解し、問われた内容に対して適切かつわかりやすく説明できているか ・論理的思考力、および論理構成本力が学術論文執筆に十分であるか <E.データ解析> 本設問の出題意図は次の2点である。 ①統計学の基本的な概念・統計量について理解しているか ②その意味と目的について理解しているか 採点基準は以下のとおりである。 ①基本的な統計量の算出方法を誤りなく記述できていること ②記述統計と推測統計の違いを理解して記述できていること なお、いずれの問題に関しても、解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例を公表することはできない。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	教育学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☒ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	教育学
出題の意図	本試験問題は、すべて教育学についての知識を問うものとなっているが、問1以外の問題は、その出題形式の性質上、解答や解答例を公表することは適切ではないと判断し、代わりに採点時の観点を以下に示す。
解答または解答例	〔問1〕 教育学についての基礎的な知識を問うものである。正解は以下の通りである。 ①メリトクラシー ②学問 ③エディプス・コンプレックス ④ケア ⑤合議 ⑥コメニウス ⑦教育基本法 ⑧隠れたカリキュラム ⑨公民館 ⑩変容的学習 〔問2〕 A 修士レベルに求められる学術的な論述力を問う問題である。日本教育史の分野における基本的 な問いに対して、適切かつ説得力のある論述を展開できるかが問われている。学問的な思考を、豊かな着想力を持って展開し、論理性と一貫性を備えた文章で表現できることが求められている。 〔問2〕 B 修士レベルに求められる学術的な論述力を問う問題である。教育制度学や教育方法学における基本的 な問いに対して、適切かつ説得力のある論述を展開できるかが問われている。学問的な思考を、豊かな着想力を持って展開し、論理性と一貫性を備えた文章で表現できることが求められている。 〔問2〕 C 修士レベルに求められる学術的な論述力を問う問題である。教育社会学における基本的 な問いに対して、適切かつ説得力のある論述を展開できるかが問われている。学問的な思考を、豊かな着想力を持って展開し、論理性と一貫性を備えた文章で表現できることが求められている。 〔問2〕 D a 基本的な日本語の読解力について確認する問題である。解答および解答例は著作物の著作権許諾処理の問題により公表できない。 b については、教育についての基本的 な問いに対して、適切かつ説得力のある論述を展開できるかが問われている。学問的な思考を、豊かな着想力を持って展開し、論理性と一貫性を備えた文章で表現できることが求められている。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	教育学専攻
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	教育学
出題の意図	本試験問題は、すべて教育学についての知識を問うものとなっているが、問1以外の問題は、その出題形式の性質上、解答や解答例を公表することは適切ではないと判断し、代わりに採点時の観点を以下に示す。
解答または解答例	〔問1〕 教育学についての基礎的な知識を問うものである。正解は以下の通りである。 ①エミール ②生活綴り方 ③コミュニティ・スクール ④公 ⑤教育刷新委員会 ⑥コールバーグ ⑦いじめ防止対策推進法 ⑧カリキュラム・オーバーロード ⑨社会教育団体 ⑩拡張的学習 〔問2〕 A 修士レベルに求められる学術的な論述力を問う問題である。日本教育史の分野における基本的な問いに対して、適切かつ説得力のある論述を展開できるかが問われている。学問的な思考を、豊かな着想力を持って展開し、論理性と一貫性を備えた文章で表現できることが求められている。 〔問2〕 B 修士レベルに求められる学術的な論述力を問う問題である。教育制度学や教育方法学における基本的 な問いに対して、適切かつ説得力のある論述を展開できるかが問われている。学問的な思考を、豊かな着想力を持って展開し、論理性と一貫性を備えた文章で表現できることが求められている。 〔問2〕 C 修士レベルに求められる学術的な論述力を問う問題である。教育社会学における基本的 な問いに対して、適切かつ説得力のある論述を展開できるかが問われている。学問的な思考を、豊かな着想力を持って展開し、論理性と一貫性を備えた文章で表現できることが求められている。 〔問2〕 D a 基本的な日本語の読解力について確認する問題である。解答および解答例は著作物の著作権許諾処理の問題により公表できない。 b については、教育についての基本的 な問いに対して、適切かつ説得力のある論述を展開できるかが問われている。学問的な思考を、豊かな着想力を持って展開し、論理性と一貫性を備えた文章で表現できることが求められている。

「出題の意図」 ・ 「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	心理学専攻（心理学コース）
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	心理学
出題の意図 解答または解答例	I P-1： 本問は、心理学における性差研究の意義を、単なる男女差の列挙ではなく、心理学的知見の一般化可能性、発達・生物学的要因と社会文化的要因の相互作用、臨床・教育・産業場面への応用可能性を含めて説明できるかを問う問題である。性差研究の有用性と同時に、固定観念の再生産や過度の本質主義に陥らない批判的視点をもつかも評価対象となる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・性差研究の学術的意義を説明できているか ・生物学的要因と社会文化的要因の双方に言及できているか ・個人差との関係を踏まえているか ・研究上の留意点や限界を述べられているか ・論述がバランスよく構成されているか P-2： 本問は、前頭葉損傷によって生じうる影響を、部位ごとの機能差を踏まえて説明できるかを問う問題である。実行機能、抑制、ワーキングメモリ、意思決定、社会的行動、情動制御、人格変化などを、前頭前野の機能と関連づけて整理できるかをみる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・前頭葉の主要機能を整理しているか ・損傷による認知・情動・行動上の変化を具体的に述べているか ・背外側前頭前野、眼窩前頭皮質、内側前頭系などの機能差に触れているか ・神経心理学的知見に基づき記述しているか ・説明が体系的であるか

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（☒ 秋季 ☐ 春季） 文学研究科 ☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程 心理学専攻（心理学コース）
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	心理学
出題の意図 解答または解答例	P-3： 本問は、心理学史・理論心理学における構成主義と全体主義の違いを理解しているかを問う問題である。心理現象を要素に分解して理解しようとする立場と、全体的なまとまりや構造を重視する立場との相違を、知覚・認知・学習などの具体例に即して論じることが求められる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・両立場の定義が明確か ・心理現象理解の方法論的差異を説明できているか ・具体例を用いているか ・歴史的・理論的文脈を踏まえているか ・比較が明瞭であるか P-4： 本問は、「ひきこもり」を単一要因で捉えるのではなく、生物・心理・社会モデルに基づいて多面的に説明できるかを問う問題である。発達特性、精神症状、家族関係、学校・職場不適応、社会的孤立、文化的要因などを統合的に捉える視点をみる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・生物・心理・社会の3側面を適切に区別しつつ統合しているか ・多因子的理解ができているか ・精神疾患との関係を過度に単純化していないか ・支援や理解への含意に触れているか ・偏見の少ない記述であるか

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	心理学専攻（心理学コース）
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	心理学
出題の意図 解答または解答例	P-5： 本問は、認知療法におけるホームワークの意義と実際を理解しているかを問う問題である。面接外での実践課題としての役割、認知再検討や行動変容の促進、自己観察、般化の促進などを説明できるかをみる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・ホームワークの目的を説明できているか ・認知療法の理論と結びつけているか ・具体例を挙げられているか ・実施上の工夫や留意点に言及しているか ・臨床的意義を適切に位置づけているか P-6： 本問は、DSM-5-TRにおけるPTSD症状を正確に理解しているかを問う問題である。侵入症状、回避、認知と気分の否定的変化、過覚醒という中核的なトラウマ症状群を、診断的観点から整理して説明できるかを評価する。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・症状群をDSM-5-TRに即して整理しているか ・各症状群の具体例を示しているか ・単なる列挙でなく診断概念として説明しているか ・トラウマ曝露との関係を理解しているか ・用語理解が正確であるか

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（ ■秋季 □春季 ） 文学研究科 ■博士前期課程 □博士後期課程 心理学専攻（心理学コース）
入試方式	■一般入試 □社会人特別入試 ■外国人留学生入試
試験科目	心理学
出題の意図 解答または解答例	II 本問は心理学領域の基礎概念・専門語等の英語に関する用語理解を問うている。 ◆解答例 1. 見当識障害 時間、場所、人物、状況などについての把握が不正確または失われた状態をいう。せん妄、認知症、脳損傷などでみられ、意識障害や記憶障害と関連することが多い。 2. 第三次予防 疾病や障害が生じた後に、その悪化防止、再発予防、機能回復、社会復帰を促進する予防段階を指す。リハビリテーションや再発予防プログラムが代表例である。 3. 限局性学習症 読み、書き、算数など特定の学習領域に持続的困難を示す発達障害である。知的能力全般の低さでは説明できず、学業や日常適応に実質的な支障を来す。 4. 心気症 重い病気にかかっているのではないかという過度の心配にとらわれる状態を指す。身体感覚への過敏な注意や、医学的 reassurance を得ても不安が続くことが特徴である。 5. 行動主義 心理学の対象を観察可能な行動に限定し、刺激と反応、学習の法則によって行動を説明しようとする立場である。内観よりも客観的測定と実験的方法を重視する。 6. 特性不安 状況にかかわらず比較的安定して不安を感じやすい個人差特性をいう。一時的な状態不安とは区別され、性格傾向やストレス脆弱性の理解に用いられる。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季 ） 文学研究科 ☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程 心理学専攻（心理学コース）
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	心理学
出題の意図 解答または解答例	7. 側頭葉 大脳半球の側面下部に位置し、聴覚処理、言語理解、記憶、情動処理などに関わる脳領域である。海馬や扁桃体などと機能的に深く関連する。 8. 行動実験 認知行動療法で用いられる方法で、患者の信念や予測を実際の行動を通じて検証する技法である。単なる説明ではなく、経験を通じて認知の修正を促す点に特徴がある。 9. 長期増強 高頻度刺激などの後に、シナプス伝達効率が長期にわたり増大する現象をいう。学習や記憶の神経基盤として重視され、海馬でよく研究されてきた。 10. 人間性心理学 人間の主体性、成長可能性、自己実現などを重視する心理学的立場である。精神分析や行動主義への対抗として展開され、ロジャーズやマズローが代表的である。 11. 消去 条件づけにおいて、強化子や無条件刺激が伴わない試行を繰り返すことで、条件反応やオペラント反応が弱まる現象をいう。もとの学習が単純に消滅するわけではない。 12. 感情調節 自分に生じた感情を認識し、その強さ・持続時間・表出の仕方を、状況や目的に応じて調整する働きをいう。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（☐ 秋季 ☒ 春季） 文学研究科 ☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程 心理学専攻（心理学コース）
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	心理学
出題の意図 解答または解答例	I P-1： 本問は、時間横断的メタ分析の考え方と方法論を理解しているかを問う問題である。異なる年代に実施された研究結果を統合し、心理指標の平均値変動や世代差・時代差を検討する方法として説明できるかをみる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・時間横断的メタ分析の定義が明確か ・通常のメタ分析との違いに触れているか ・時代変化・世代効果の検討という目的を説明しているか ・限界や解釈上の注意に言及しているか ・方法論的説明が整っているか P-2： 本問は、失語症の代表的タイプと脳損傷部位との関連を神経心理学的に説明できるかを問う問題である。ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語などを、症候と病巣との対応関係に基づいて整理できるかをみる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・代表的失語症の類型を挙げているか ・各タイプの症候を説明できているか ・病巣との対応関係が正確か ・言語機能局在に関する理解が示されているか ・体系的な整理ができているか

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	心理学専攻（心理学コース）
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	心理学
出題の意図 解答または解答例	P-3： 本問は、神経伝達の基礎として、化学シナプスと電気シナプスの違いを説明できるかを問う問題である。構造、伝達機序、速度、可塑性、一方向性・双方向性などを比較して理解しているかをみる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・両者の定義が正確か ・伝達機構の違いを説明できているか ・機能的特徴を比較できているか ・神経科学の基本概念に即しているか ・比較が明快であるか P-4： 本問は、自己愛の過敏型と誇大型を二分法的に捉えるのではなく、共通基盤と相違点の双方から説明できるかを問う問題である。自己評価の脆弱性、防衛的自己高揚、対人関係の特徴などを踏まえ、現代的な自己愛理解ができるかをみる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・両者の定義が正確か ・両類型の特徴を整理できているか ・共通性と差異の双方に言及しているか ・防衛や脆弱性の観点を含んでいるか ・パーソナリティ心理学・臨床心理学双方への関連があるか ・単純な類型化に終わっていないか

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	心理学専攻（心理学コース）
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	心理学
出題の意図 解答または解答例	P-5： 本問は、オペラント条件づけの中核概念である正の強化と負の強化を区別して説明できるかを問う問題である。罰との混同なく、行動頻度の増加という共通点と、刺激付与・刺激除去という差異を正確に記述できるかをみる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・両者の定義が正確か ・強化の定義が正確か ・正と負の違いを誤りなく説明しているか ・罰との違いに言及しているか ・具体例が適切か ・基礎学習理論への理解が示されているか P-6： 本問は、解決志向ブリーフセラピーにおいて、問題の原因追究より相互作用のパターン、例外、変化可能性に焦点を当てるというシステム論的発想について、これを十分に理解して説明できるかを問う問題である。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・直線的因果律と円環的因果律との違いを明確に説明しているか ・両者の違いを臨床実践に結びつけているか ・解決志向ブリーフセラピーの考え方を理解しているか ・原因論から相互作用論への転換を説明できているか ・臨床的含意が明確か

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2026年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	心理学専攻（心理学コース）
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	心理学
出題の意図 解答または解答例	II 本問は心理学領域の基礎概念・専門語等の英語に関する用語理解を問うている。 ◆解答例 1. 半側空間無視 主に右半球損傷後にみられ、左側空間の刺激や身体の一側に注意を向けにくくなる神経心理学的症候である。感覚障害そのものではなく、注意・表象の障害として理解される。 2. 機能分析 行動がどのような先行条件と結果によって維持されているかを明らかにする分析である。問題行動の機能を把握し、介入方針を立てるために用いられる。 3. 長期抑圧 特定の刺激入力後に、シナプス伝達効率が長期的に低下する現象をいう。長期増強と並ぶシナプス可塑性の一形態で、学習や記憶の調整機構として重要である。 4. 広場恐怖 逃げにくい、または援助を得にくい状況への強い不安や回避を特徴とする不安症である。公共交通機関、人混み、屋外、閉鎖空間など複数の場面でみられることが多い。 5. 馴化 同じ刺激が繰り返し呈示されることで反応が徐々に弱まる現象である。感覚受容器の疲労とは区別される基本的な非連合学習の一つである。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（☐ 秋季 ☒ 春季） 文学研究科 ☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程 心理学専攻（心理学コース）
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	心理学
出題の意図 解答または解答例	6. 解離 意識、記憶、同一性、知覚など本来統合されている心的機能の結びつきが弱まる現象をいう。強いストレスやトラウマとの関連が論じられることが多い。 7. 海馬 側頭葉内側部にある脳構造で、エピソード記憶や空間記憶の形成に重要な役割を果たす。新しい記憶の固定や学習に深く関わることが知られている。 8. 自律尊重 人が自らの価値観と判断に基づいて選択する権利を尊重するという倫理原則である。医療・研究・心理支援における説明と同意の基盤となる。 9. 近赤外分光法 近赤外光を用いて脳血流動態の変化を測定し、脳活動を推定する方法である。非侵襲的で比較的实施しやすいが、深部構造の計測には限界がある。 10. 場面緘黙 特定の社会的状況では話せない一方、他の状況では話せる状態が持続する障害である。単なる恥ずかしがりではなく、不安との関連が深いと考えられている。 11. 洞察的問題解決 試行錯誤の積み重ねではなく、問題の再構成によって突然解決に至る問題をいう。アハ体験を伴うことが多く、ゲシュタルト心理学で重視された。 12. 共分散分析 群間比較において、従属変数に影響する共変量の効果を統制しながら平均の差を検討する統計手法である。実験研究や準実験研究で交絡要因の調整に用いられる。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（ ■秋季 □春季 ） 文学研究科 ■博士前期課程 □博士後期課程 心理学専攻（臨床心理学コース）
入試方式	■一般入試 ■社会人特別入試 ■外国人留学生入試
試験科目	臨床心理学
出題の意図 解答または解答例	I C-1： 本問は、「ひきこもり」を単一要因で捉えるのではなく、生物・心理・社会モデルに基づいて多面的に説明できるかを問う問題である。発達特性、精神症状、家族関係、学校・職場不適応、社会的孤立、文化的要因などを統合的に捉える視点をみる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・生物・心理・社会の3側面を適切に区別しつつ統合しているか ・多因子的理解ができているか ・精神疾患との関係を過度に単純化していないか ・支援や理解への含意に触れているか ・偏見の少ない記述であるか C-2： 本問は、認知療法におけるホームワークの意義と実際を理解しているかを問う問題である。面接外での実践課題としての役割、認知再検討や行動変容の促進、自己観察、般化の促進などを説明できるかをみる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・ホームワークの目的を説明できているか ・認知療法の理論と結びつけているか ・具体例を挙げられているか ・実施上の工夫や留意点に言及しているか ・臨床的意義を適切に位置づけているか

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季 ） 文学研究科 ☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程 心理学専攻（臨床心理学コース）
入試方式	☒ 一般入試 ☒ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	臨床心理学
出題の意図 解答または解答例	C-3： 本問は、DSM-5-TRにおけるPTSD症状を正確に理解しているかを問う問題である。侵入症状、回避、認知と気分の否定的変化、過覚醒という中核的なトラウマ症状群を、診断的観点から整理して説明できるかを評価する。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・症状群をDSM-5-TRに即して整理しているか ・各症状群の具体例を示しているか ・単なる列挙でなく診断概念として説明しているか ・トラウマ曝露との関係を理解しているか ・用語理解が正確であるか C-4： 本問は、心理学における性差研究の意義を、単なる男女差の列挙ではなく、心理学的知見の一般化可能性、発達・生物学的要因と社会文化的要因の相互作用、臨床・教育・産業場面への応用可能性を含めて説明できるかを問う問題である。性差研究の有用性と同時に、固定観念の再生産や過度の本質主義に陥らない批判的視点をもつかも評価対象となる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・性差研究の学術的意義を説明できているか ・生物学的要因と社会文化的要因の双方に言及できているか ・個人差との関係を踏まえているか ・研究上の留意点や限界を述べられているか ・論述がバランスよく構成されているか

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季 ） 文学研究科 ☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程 心理学専攻（臨床心理学コース）
入試方式	☒ 一般入試 ☒ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	臨床心理学
出題の意図 解答または解答例	C-5： 本問は、前頭葉損傷によって生じうる影響を、部位ごとの機能差を踏まえて説明できるかを問う問題である。実行機能、抑制、ワーキングメモリ、意思決定、社会的行動、情動制御、人格変化などを、前頭前野の機能と関連づけて整理できるかをみる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・前頭葉の主要機能を整理しているか ・損傷による認知・情動・行動上の変化を具体的に述べているか ・背外側前頭前野、眼窩前頭皮質、内側前頭系などの機能差に触れているか ・神経心理学的知見に基づき記述しているか ・説明が体系的であるか C-6： 本問は、心理学史・理論心理学における構成主義と全体主義の違いを理解しているかを問う問題である。心理現象を要素に分解して理解しようとする立場と、全体的なまとまりや構造を重視する立場との相違を、知覚・認知・学習などの具体例に即して論じることが求められる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・両立場の定義が明確か ・心理現象理解の方法論的差異を説明できているか ・具体例を用いているか ・歴史的・理論的文脈を踏まえているか ・比較が明瞭であるか

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（ ■秋季 □春季 ） 文学研究科 ■博士前期課程 □博士後期課程 心理学専攻（臨床心理学コース）
入試方式	■一般入試 ■社会人特別入試 ■外国人留学生入試
試験科目	臨床心理学
出題の意図 解答または解答例	II 本問は心理学領域の基礎概念・専門語等の英語に関する用語理解を問うている。 ◆解答例 1. 見当識障害 時間、場所、人物、状況などについての把握が不正確または失われた状態をいう。せん妄、認知症、脳損傷などでみられ、意識障害や記憶障害と関連することが多い。 2. 第三次予防 疾病や障害が生じた後に、その悪化防止、再発予防、機能回復、社会復帰を促進する予防段階を指す。リハビリテーションや再発予防プログラムが代表例である。 3. 限局性学習症 読み、書き、算数など特定の学習領域に持続的困難を示す発達障害である。知的能力全般の低さでは説明できず、学業や日常適応に実質的な支障を来す。 4. 心気症 重い病気にかかっているのではないかという過度の心配にとらわれる状態を指す。身体感覚への過敏な注意や、医学的 reassurance を得ても不安が続くことが特徴である。 5. 行動主義 心理学の対象を観察可能な行動に限定し、刺激と反応、学習の法則によって行動を説明しようとする立場である。内観よりも客観的測定と実験的方法を重視する。 6. 特性不安 状況にかかわらず比較的安定して不安を感じやすい個人差特性をいう。一時的な状態不安とは区別され、性格傾向やストレス脆弱性の理解に用いられる。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（ ☒ 秋季 ☐ 春季 ） 文学研究科 ☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程 心理学専攻（臨床心理学コース）
入試方式	☒ 一般入試 ☒ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	臨床心理学
出題の意図 解答または解答例	7. 側頭葉 大脳半球の側面下部に位置し、聴覚処理、言語理解、記憶、情動処理などに関わる脳領域である。海馬や扁桃体などと機能的に深く関連する。 8. 行動実験 認知行動療法で用いられる方法で、患者の信念や予測を実際の行動を通じて検証する技法である。単なる説明ではなく、経験を通じて認知の修正を促す点に特徴がある。 9. 長期増強 高頻度刺激などの後に、シナプス伝達効率が長期にわたり増大する現象をいう。学習や記憶の神経基盤として重視され、海馬でよく研究されてきた。 10. 人間性心理学 人間の主体性、成長可能性、自己実現などを重視する心理学的立場である。精神分析や行動主義への対抗として展開され、ロジャーズやマズローが代表的である。 11. 消去 条件づけにおいて、強化子や無条件刺激が伴わない試行を繰り返すことで、条件反応やオペラント反応が弱まる現象をいう。もとの学習が単純に消滅するわけではない。 12. 感情調整 自分に生じた感情を認識し、その強さ・持続時間・表出の仕方を、状況や目的に応じて調整する働きをいう。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2026年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	心理学専攻（臨床心理学コース）
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	臨床心理学
出題の意図 解答または解答例	I C-1： 本問は、自己愛の過敏型と誇大型を二分法的に捉えるのではなく、共通基盤と相違点の双方から説明できるかを問う問題である。自己評価の脆弱性、防衛的自己高揚、対人関係の特徴などを踏まえ、現代的な自己愛理解ができるかをみる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・両者の定義が正確か ・両類型の特徴を整理できているか ・共通性と差異の双方に言及しているか ・防衛や脆弱性の観点を含んでいるか ・パーソナリティ心理学・臨床心理学双方への関連があるか ・単純な類型化に終わっていないか C-2： 本問は、オペラント条件づけの中核概念である正の強化と負の強化を区別して説明できるかを問う問題である。罰との混同なく、行動頻度の増加という共通点と、刺激付与・刺激除去という差異を正確に記述できるかをみる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・両者の定義が正確か ・強化の定義が正確か ・正と負の違いを誤りなく説明しているか ・罰との違いに言及しているか ・具体例が適切か ・基礎学習理論への理解が示されているか

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（☐ 秋季 ☒ 春季） 文学研究科 ☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程 心理学専攻（臨床心理学コース）
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	臨床心理学
出題の意図 解答または解答例	C-3： 本問は、解決志向ブリーフセラピーにおいて、問題の原因追究より相互作用のパターン、例外、変化可能性に焦点を当てるというシステム論的発想について、これを十分に理解して説明できるかを問う問題である。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・直線的因果律と円環的因果律との違いを明確に説明しているか ・両者の違いを臨床実践に結びつけているか ・解決志向ブリーフセラピーの考え方を理解しているか ・原因論から相互作用論への転換を説明できているか ・臨床的含意が明確か C-4： 本問は、時間横断的メタ分析の考え方と方法論を理解しているかを問う問題である。異なる年代に実施された研究結果を統合し、心理指標の平均値変動や世代差・時代差を検討する方法として説明できるかをみる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・時間横断的メタ分析の定義が明確か ・通常のメタ分析との違いに触れているか ・時代変化・世代効果の検討という目的を説明しているか ・限界や解釈上の注意に言及しているか ・方法論的説明が整っているか

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度 研究科 課程 専攻	2026年度入試（☐ 秋季 ☒ 春季） 文学研究科 ☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程 心理学専攻（臨床心理学コース）
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	臨床心理学
出題の意図 解答または解答例	C-5： 本問は、失語症の代表的タイプと脳損傷部位との関連を神経心理学的に説明できるかを問う問題である。ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語などを、症候と病巣との対応関係に基づいて整理できるかをみる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・代表的失語症の類型を挙げているか ・各タイプの症候を説明できているか ・病巣との対応関係が正確か ・言語機能局在に関する理解が示されているか ・体系的な整理ができているか C-6： 本問は、神経伝達の基礎として、化学シナプスと電気シナプスの違いを説明できるかを問う問題である。構造、伝達機序、速度、可塑性、一方向性・双方向性などを比較して理解しているかをみる。 解答を誘導する恐れがあるため、解答または解答例に代えて、評価の観点を以下に示す。 ・両者の定義が正確か ・伝達機構の違いを説明できているか ・機能的特徴を比較できているか ・神経科学の基本概念に即しているか ・比較が明快であるか

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	心理学専攻（臨床心理学コース）
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	臨床心理学
出題の意図 解答または解答例	II 本問は心理学領域の基礎概念・専門語等の英語に関する用語理解を問うている。 ◆解答例 1. 半側空間無視 主に右半球損傷後にみられ、左側空間の刺激や身体の一側に注意を向けにくくなる神経心理学的症候である。感覚障害そのものではなく、注意・表象の障害として理解される。 2. 機能分析 行動がどのような先行条件と結果によって維持されているかを明らかにする分析である。問題行動の機能を把握し、介入方針を立てるために用いられる。 3. 長期抑圧 特定の刺激入力後に、シナプス伝達効率が長期的に低下する現象をいう。長期増強と並ぶシナプス可塑性の一形態で、学習や記憶の調整機構として重要である。 4. 広場恐怖 逃げにくい、または援助を得にくい状況への強い不安や回避を特徴とする不安症である。公共交通機関、人混み、屋外、閉鎖空間など複数の場面でみられることが多い。 5. 馴化 同じ刺激が繰り返し呈示されることで反応が徐々に弱まる現象である。感覚受容器の疲労とは区別される基本的な非連合学習の一つである。

「出題の意図」・「解答または解答例」

年度	2 0 2 6 年度入試（ ☐ 秋季 ☒ 春季）
研究科	文学研究科
課程	☒ 博士前期課程 ☐ 博士後期課程
専攻	心理学専攻（臨床心理学コース）
入試方式	☒ 一般入試 ☐ 社会人特別入試 ☒ 外国人留学生入試
試験科目	臨床心理学
出題の意図 解答または解答例	6. 解離 意識、記憶、同一性、知覚など本来統合されている心的機能の結びつきが弱まる現象をいう。強いストレスやトラウマとの関連が論じられることが多い。 7. 海馬 側頭葉内側部にある脳構造で、エピソード記憶や空間記憶の形成に重要な役割を果たす。新しい記憶の固定や学習に深く関わることが知られている。 8. 自律尊重 人が自らの価値観と判断に基づいて選択する権利を尊重するという倫理原則である。医療・研究・心理支援における説明と同意の基盤となる。 9. 近赤外分光法 近赤外光を用いて脳血流動態の変化を測定し、脳活動を推定する方法である。非侵襲的で比較的实施しやすいが、深部構造の計測には限界がある。 10. 場面緘黙 特定の社会的状況では話せない一方、他の状況では話せる状態が持続する障害である。単なる恥ずかしがりではなく、不安との関連が深いと考えられている。 11. 洞察的問題解決 試行錯誤の積み重ねではなく、問題の再構成によって突然解決に至る問題をいう。アハ体験を伴うことが多く、ゲシュタルト心理学で重視された。 12. 共分散分析 群間比較において、従属変数に影響する共変量の効果を統制しながら平均の差を検討する統計手法である。実験研究や準実験研究で交絡要因の調整に用いられる。